

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	3	1 年	

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館701）	現代高等保健体育・図説現代高等保健体育（大修館701）

科目の目標
<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性について理解している。・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、 <ul style="list-style-type: none">・合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。・解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、 <ul style="list-style-type: none">・公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。・健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 運動の知識・技能の点検、確認、分析（ルール等の小テスト、スキルテスト、発表会、学習プリント・ノート等） 記述の点検、確認、分析（学習プリント・ノート、グループワーク等） 行動の観察、確認（グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等）

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動に自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○

5	陸上競技	100M走 走り幅跳び ハンドボール投げ	記録の向上につながる動きのポイントを理解し、技術と関連させた運動や練習を継続して行うことができる。	○		
			合理的なフォームを身に付けることでタイムの短縮を図ることができる。	○		
			自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
6	水泳	クロール、平泳ぎ	各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	○		
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			○
7	体づくり運動	新体力テスト 体力を高める運動	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。	○		
			運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保することができる。			○
	体育理論	スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展	スポーツの歴史的発展と多様な変化、現代スポーツの意義や価値について理解している。	○		
			自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに他者に伝えることができる。		○	
			課題を発見するための意見交換などの学習に自ら進んで取り組んでいる。			○
8	球技	ゴール型 ・ハンドボール（男子） ・バスケットボール（女子）	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
9	体育理論	スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展	スポーツの経済的効果と高潔さ、スポーツが環境や社会にもたらす影響について理解している。	○		
			自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに他者に伝えることができる。		○	
			課題を発見するための意見交換などの学習に自ら進んで取り組んでいる。			○

1	陸上競技	長距離走	自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。	○		
			記録の向上に有効な練習方法のやり方について、自己の考えを伝えることができる。		○	
2			一人一人の技能の違いに応じた課題に自主的に取り組んでいる。			○
3	球技	ゴール型 ・バスケットボール（男子） ・ハンドボール（女子）	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きなどによってゴール前への侵入から攻防をすること。	○		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
			球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	保健	1	1	

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館701）	現代高等保健体育・図説現代高等保健体育（大修館701）

科目の目標
<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・現代社会と健康について、理解を深めること。・安全な社会生活について、理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともにそれらを表現することができる。・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもつことができる。・生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力をつけている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能の点検、確認、分析（定期テスト、学習プリント・ノート等） ・記述の点検、確認、分析（学習プリント・ノート、グループワーク等） ・行動の観察、確認（課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等）

学習計画						
月	項目	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	安全な社会生活	(ア)安全な社会づくり	安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解している。	○		
		・事故の現状と発生要因	安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。		○	
5		・安全な社会の形成 ・交通安全	課題解決に向けた話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
	現代社会と健康	(イ)健康の考え方	国民の健康水準の向上や疾病構造の変化について理解している。	○		
6		・国民の健康問題 ・健康の考え方と成り立ち	健康の考え方について、課題を発見し、解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。		○	

7	現代社会と健康	・健康の保持増進のための適切な意思決定や行動選択と環境づくり	健康の考え方について、健康に関する資料を見つけたり、自分達の生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
9		(イ) 現代の感染症とその予防	感染症の発生や流行、その予防について、理解している。	○		
		・感染症の予防	感染症とその予防について、課題を発見し、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができる。		○	
		・性感染症・エイズとその予防	感染症とその予防について、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
10			健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。	○		
11		(ウ) 生活習慣病などの予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復	生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、個人の取組や社会的な対策を整理している。		○	
			生活習慣病の予防や回復について、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
12		(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	喫煙と飲酒が生活習慣病などの要因になることや、薬物乱用が心身の健康や社会に深刻な影響を与えていることについて理解している。	○		
		・喫煙、飲酒と健康				
		・薬物乱用と健康	喫煙や飲酒、薬物乱用について、課題を発見し、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができる。		○	
			喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、課題解決に向けた話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
1		(オ) 精神疾患の予防と回復	精神疾患の予防と回復には、調和のとれた生活の実践や早期の心身の不調への気づき、様々な方法でストレスを緩和することが重要であることを理解している。	○		
		・精神疾患の特徴				
2		・精神疾患の予防	精神疾患の予防と回復について、課題を発見し、健康を支える環境づくりと解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができる。		○	
		・精神疾患からの回復	精神疾患の予防と回復について、課題解決に向けた話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○

2025年度 芸術科 年間授業計画表						
科目名	音楽Ⅰ		単位数	2	学年・類型	1年生（選択者のみ）
担当者		使用教科書	教育出版 『音楽Ⅰ Tutti Plus』		副教材	
科目の目標 （指導目標）	音楽の幅広い活動を通じて、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
①知識・技能	音楽理論試験・器楽の実技試験により評価する。					
②思考・判断・表現	「音楽的な感受」に基づきながら音楽表現を工夫し、どのように音楽を表すかについて思いや意図を持っている状況を評価する。					
③主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を評価する。					
評 価 方 法						
①知識・技能 ②思考判断・表現 ③主体的態度の三観点を、試験や授業中の歌唱・演奏への取り組みから厳正に判断して評価する。						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	歌唱（校歌）	p.8 少年時代 p.18 四季の歌 p.22 オーソーレミオ（イタリア歌曲） p.28 ハイデルスライン（ドイツ歌曲） p.39 トップ・オブ・ザ・ワールド（英語） p.40 オーシャンゼリゼ（フランス歌曲）	ストレッチと発声練習を取り入れて、ハリのある歌声とブレスを上手に使って声を出しているかを目標とする。校歌歌唱テストを実施する。	○	△	○
	歌唱（教科書）		世界各国の言語に基づいてそれぞれ正確な発音と歌詞で歌うことができるか評価する。	△		○
1 学 期 後 半	音楽理論	p.146～153	音楽基礎理論 音名・音程・音符と休符・拍子・音階・調号と主音・反復記号・強弱記号・速度記号・発想記号を学習する。 音楽理論テストを実施する。	○		○
	音楽鑑賞	p.110～131	作曲家や作品背景を理解する。	○		○
2 学 期 前 半	器楽演奏 リコーダー（個人）	p.156	タンギング、指使い、姿勢、息の強さ、呼吸法、楽器の持ち方などを学習する。 音色・リズム・曲想を正確にとらえて演奏できるように指導する。 課題曲の個人テストを実施する。	○		○
				○	△	○
2 学 期 後 半	器楽演奏 リコーダー（グループ）		グループに分かれて、自分たちの好きな曲を選択して、美しい音色のハーモニーを追求しながら、楽しんで協力しながら演奏する。 発表会を開催して、クラスの生徒の前で演奏し、練習成果を披露する。 グループ演奏テストを実施する。	○	△	○
				○	△	○
3 学 期	合唱（混声3部）		選択クラス共通の課題曲とクラス自由曲をそれぞれ決めて演奏する。 各パートが協力して、美しいハーモニーと正確なリズム、音程で歌うことができるかを目標に歌唱する。	○	△	○
			各パートのソロテストを実施する。			
留意事項		授業に対して取り組む雰囲気ができるよう、パートごとに分かれて行う練習等を取り入れながら理解を深めるように指導する。				

2025年度 芸術科 年間授業計画表						
科目名	美術Ⅰ		単位数	2	学年・類型	1年（選択者のみ）
担当者		使用教科書	光村図書『美術1』		副教材	
科目の目標 (指導目標)	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。					
評価の観点とその趣旨						
①知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。					
②思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。					
③主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。					
評価方法						
ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品、アイデアスケッチ ウ ワークシート等への記述内容 エ 提出物の内容 アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期前半	ガイダンス	美術は自由だ	・年間の制作計画を確認し美術や美術文化と豊かにかかわり主体的に表現及び鑑賞の創作活動に取り組める。 ・色の性質について学び、色の機能性や効果を理解して、創造的な表現の学習活動に取り組める。 ・葛飾北斎、モネ、吉田博などの風景画を鑑賞し比較しながら、さまざまな遠近法などの空間表現を知り、作者の心情や意図などについて見方や感じ方を深めている。			○
	色彩理論	色の特徴を知ろう		○		
	遠近法	風景を描く		○		○
1学期後半	風景画	風景を描く・水彩画で描く・アクリル絵の具で描く	・身近な風景を題材に、対象や事象をとらえる造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を工夫し造形的に表すことができる。 ・対象を基本形態に置き換えて観察し、造形の要素の働きと造形的な特徴などを基に創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付けて表現方法を創意工夫している。	○	○	○
	デッサン	鉛筆で描く		○		○

2 学 期 前 半	写真表現	写真を撮影する	・デジタルカメラやスマートフォンを使って映像メディア表現の特質や表現形式の特性を生かし、心情や意図と創造的な表現の工夫などについて創造的な表現の構想を練る。	○	○	○
	写真を使った構成	写真表現の可能性	・写真と文字と色彩構成の3つの要素を構成する。意図に応じて多様な視点から材料や用具の特性を効果的に生かし創造的に表す。	○	○	○
2 学 期 後 半	ポップアップ鑑賞	想像した世界を描く	・ロバート・サブダの作品を鑑賞し、材料や用具の特性や生かし方や表現方法について実際に材料や用具を用いながら試作し、主題を確認して創造的に表現する。	○	○	○
		作家の生涯と作品パブロ・ピカソ	・ピカソの生涯と作品を題材に、多様な視点に立って造形的な美しさをより深く感じ取り、自分としての根拠を持ちながら関連付けて捉え、見方や感じ方を深める。	○		○
3 学 期	表紙のデザイン	メッセージを広く伝える	・1年分の平面作品を製本するにあたり、これまでの自分の作品の方向性を認識して、主題を生成し表現形式の特性を生かして、創造的な表現の構想を練る。	○	○	○
	作品集の装丁	パッケージのデザイン	・本の成り立ちや仕組みを理解し、自身の製本作業をすることで美術を愛好する心情を育む。複雑な製本の工程を、用具や素材の特性を理解して正確に完成することができる。	○		○
	ボックスアート	彫刻の技法	・塑像作品について、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解し、箱に塑像作品とその他自由な素材を使って主題を創造的に表す。	○		○
留意事項						

2025年度 芸術科 年間授業計画表						
科目名	書道Ⅰ	単位数	2	学年・類型	1年（選択者のみ）	
担当者		使用教科書	書Ⅰ（光村図書）		副教材	
科目の目標 （指導目標）	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
①知識・技能	書の表現の方法や形式，書表現の多様性について，書の創造的活動を通して理解を深めている。 書の伝統に基づき，作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け，表している。					
②思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり， 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい深く捉えたりしている。					
③主体的に学習に 取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。					
評 価 方 法						
記述の点検、確認、分析 行動の点検、確認、分析 （テスト、課題レポートやその他提出物等への取り組み状況、授業への取り組み状況 等）						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	書写から書道へ	書道で学習すること （臨書、創作、鑑賞）	・教科書の資料編から、基本的な筆使いの確認と用具、用材についての知識を学ぶ。 ・小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している。臨書と創造的表現としての書道を理解する。	○		△
	漢字の書	漢字の変遷とさまざまな書体	・漢字には五つの書体があることを理解する。それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する。		○	
	楷書の基本	「楷書の古典」 唐の四大家	・中国の名品を鑑賞し、その特徴を理解し、表現する。様々な作品を鑑賞することにより、楷書表現の多様性を理解する。唐の四大家から、自分の好きなものを選ぶ。			○
1 学 期 後 半	孔子廟堂碑	虞世南の書	・唐の四大家の書を臨書する。それぞれの点画、字形、書風を感じ取る。また、碑が作られた経緯、碑文の内容、作者の人物像を学び、文化的価値を考え、楷書の美を味わう。 向勢と背勢の字の特徴を知る。	△	○	
	九成宮醴泉銘	欧陽詢の書				
	雁塔聖教序	褚遂良の書	・運筆や筆圧の変化、藏鋒や抑揚を利かせた用筆を習得する。古典の書風を的確に捉え、その美を感じ、臨書に生かす。肉太の点画、蚕頭燕尾、向勢の構えの顔法のポイントを理解し臨書する。			
	顔氏家廟碑	顔真卿の書				
	牛橛造像記	方勢の書	・鋭角的に刻された点画や方勢がもたらす造像記特有の趣を捉え、力強い運筆で書く。（巻末頁龍門二十品）	○		
	鄭義下碑	円勢の書	・磨崖碑の特徴である空間を包むような大回りな運筆と、点画には丸みを持たせて書く。			

2 学 期 前 半	行書と草書	行書と草書の学習	・ 行書・草書の鑑賞と臨書。	○		
	蘭亭序と風信帖		・ 中国と日本の名品を鑑賞し、その特徴を理解し、表現する。		○	
	三筆・三跡の書	行書・草書の古典に学ぶ	・ 主体的に漢字の行書、草書の幅広い鑑賞と表現の学習活動に取り組む。			○
	真草千字文					
2 学 期 後 半	隸書（曹全碑）	隸書の学習	・ 隸書の古典鑑賞と臨書。隸書の特徴を理解し、運筆のリズムを楽しむ。	○		
	篆書（泰山刻石）	篆書の学習	・ 篆書の特徴である縦長の字形や均一な太さの線を捉え、一定の速度筆圧でじっくりと書く。			
	仮名の書	仮名の成立と種類	・ 仮名の成立と変遷。仮名の基本的な筆づかいを習得する。	○		
	平仮名・変体仮名	「仮名の基本的用筆法を学ぼう」	・ 仮名の単体と変体仮名。仮名の書作品を鑑賞し、変体仮名や連綿部分の読解に努める。		○	
	蓬萊切と高野切	「仮名のリズムをつかもう」	・ 連綿の方法、平安期の仮名の格調の高さ、独特の流動美、紙面構成を学び、仮名の美を表現する。			○
3 学 期	表現を比べよう	写本による違い	・ 同じ和歌でも、表現の仕方によって印象が全く変わることを、古今和歌集の写本である二つの古筆を比べて、印象の違いを感じ取り、自ら表現してみる。	○		
	創作とは	古筆を生かした創作	・ これまでに学習したことを生かし、表現を工夫して、仮名の書を創作する。		○	
	漢字仮名交じりの書	実用書の学習 「くらしに生きる書」	・ 心に響く言葉を書く。表現の幅を広げる。文士の書を鑑賞する。手紙の書き方を学び美しく表現してみる。			○
留意事項						

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語科	英語コミュニケーションⅠ	4	1年	全 員

使用教科書	副教材等
FLEX English Communication I (増進堂)	FLEX English Communication I 予習&授業ノート 他

科目の目標
(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	関係副詞や分詞構文など、本書で学習する文法に加えて、語彙や表現など、用法や意味を理解している。また本書を通して学習する社会的、文化的な内容について、簡単な語句や文で示された内容の要点を捉えたり、自身の考えや意見を簡単な語句や文を使用して、発信したりする技能を身につけている。
思考・判断・表現	社会的、文化的な内容についての会話や説明を聞いたり読んだりして、内容の要点を捉えている。また、聞いたり読んだりして理解した内容を、学習した文法や表現、簡単な語句を用いて、聞き手や話し手、書き手を意識し、自身の考えや意見を伝え合ったり、事前に準備したものなど活用して発表したり、理由や根拠を示しながら、まとまりのある文章を書こうとしている。
主体的に学習に取り組む態度	社会的、文化的な内容についての会話や説明を聞いたり読んだりして、主体的に理解しようとしている。また、聞いたり読んだりして理解した内容を、主体的に英語を用いながら聞き手や話し手、書き手に配慮しようとしている。それに基づいて、自身の考えや意見を伝え合ったり、事前に準備したものなど活用して発表したり、理由や根拠を示しながら、まとまりのある文章を書こうとしている。

学習と評価の計画													
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価場面	評価方法
		主な領域			CE FR	主な領域において何ができるようになるのか	L	R	I	P	W		
		CAN-DO ID											
		領域	NO	記号									
1 学期前半	RS	R	1	ア	A1	readingで用いる技能を本課に入る前の準備として理解できる。		知			知思	授	PT
	CS	R	1	ア	A1	softenerと呼ばれるコミュニケーションを円滑にするテクニックを理解することができる。		知	知思			授	PT
	SL	R	1	ア	A1	キャラクターの特徴や背景を理解し、自分なりのキャラクターを考案し、地域と関連付けて紹介できる。		知思態			知思態	授・他	PT/PFT
	1	I	1	ア	A1	高校生に向けられたメッセージの意味を理解し、自分なりのフレーズを考え思いや意図を他の生徒に説明することができる。		知		知思態		授・他	PT/PFT
	RS	R	2	ア	A2	英語の句と節の考え方を理解し、語句や節を繋ぐ語を理解することができる。		知			知	授	PT
	2	P	2	ア	A2	高校生活を物に例え、それが何を意味しているのか理解し、自分の考えを共有したり、プレゼンすることができる。		知思態		知思態		授・他	PT/PFT
	3	P	2	ア	A2	宇宙開発のポジティブな側面、ネガティブな側面を検討し、グループで話し合い、その内容を発表することができる。		知思態		知思態		授・他	PT/PFT

1 学期 後半	RS	R	2	イ	A2	5文型では理解しにくい、注意すべき文型を理解することができる。		知思			知思	授・他	PT
	4	I	2	ア	A2	マララさんの「教育が唯一の解決策である」という言説に対して自分なりの意見を発表することができる。					知思態	授・他	PT/PFT
	RS	R	2	イ	A2	物語文の読み方を理解することができる。		知思				授・他	PT
	OP	R	2	イ	A2	登場人物の気持ち、行動を正確に読み取ることができる。		知思				授・他	PT
2 学期 前半	5	I	2	ア	A2	世界遺産を1つ選んで調べさせ、その内容をシートにまとめて発表することができる。		知思態			知思態	授・他	PT/PFT
	6	P	2	ア	A2	SDGsの17のゴールから1つ選び、それに関するスキットを作成し、グループで演じることができる。		知思態		知思態		授・他	PT/PFT
	RS	R	2	イ	A2	パラグラフの構成を理解させ、論説文の読み方を身に付けることができる。				知思		授・他	PT
	7	I	2	イ	A2	自宅の水の使用量に注目し、使用量を減らせる方法を考え、それをグループで共有することができる。		知思態		知思態		授・他	PT/PFT
2 学期 後半	LS	R	2	イ	A2	英語の自然な流れの中で起こる音の変化を理解することができる。	知思					授・他	PT
	8	P	2	ア	A2	ロボットに関する英文を読み、自分のオリジナルロボットを考案し、メリットやデメリットについて発表することができる。		知思態		知思態		授・他	PT/PFT
	OP	R	2	ア	A2	論説文特有の構成に注意しながら、事実や出来事を正確に読み取ることができる。		知思態				授・他	PT
	LS	I	2	イ	A2	英語の自然な流れの中で起こる音の変化を理解することができる。	知思	知思				授・他	PFT
3 学期	9	I	2	イ	A2	バイオミクリーの内容を理解させ、それからどんな製品を生み出すことができるかグループで共有することができる。		知思態		知思態		授・他	PT/PFT
	LS	I	2	イ	A2	英語のストレスパターンを理解し、より英語らしいリズムで発音する技術を身に付けることができる。	知思		知思態			授・他	PFT
	10	P	2	イ	A2	外国人から見た日本についての英文を読み、物語の感想文の構成を理解し、自分のお気に入りの作品についてクラスで共有することができる。		知思態		知思態		授・他	PT/PFT
	LS	I	2	イ	A2	英語のストレスパターンを理解し、より英語らしいリズムで発音する技術を身に付けることができる。	知思態		知態			授・他	PFT
	TP	R	2	イ	A2	様々な分野の重要な話題の基礎知識を身につけることができる。		知思態			知思	授・他	PT

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	論理・表現Ⅰ	2	1	全 員
使用教科書			副教材等	
be English Logic and ExpressionⅠ Smart (いいずな書店)			教科書準拠ワークブック 他	

科目の目標
言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。
思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。

学習と評価の計画													
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価 場面	評価 方法
		主な領域				主な領域において何ができるようになるのか	L	R	I	P	W		
		CAN	DO	ID	CE								
		領域	NO	記号	FR								
1 学期 前半	L1	P	1	イ	A1	・ 現在形や現在進行形を正しく用いて表現することができる。 ・ 日常的な話題（自己紹介）についての情報を、適切に表現したり伝え合ったりすることができる。				知思態		授	PFT
	L2	W	1	イ	A1	・ 過去形や過去進行形などを正しく用いて表現することができる。 ・ 日常的な話題（休日・週末にしたこと）について話したり書いたりすることができる。				知思態		授・他	PFT
	L3	I	1	イ	A1	・ 未来の表現を正しく用いて表現することができる。 ・ 日常的な話題（将来の夢）について話したり相手からの質問に答えたりすることができる。			知思態			授・定	PT
1 学期 後半	L4	P	2	ア	A2	・ 現在完了形を正しく用いて表現することができる。 ・ 日常的な話題（旅行や移動）について適切に表現したり伝え合ったりすることができる。				知思態		授	PFT
	L5	W	2	ア	A2	・ 過去完了形を正しく用いて表現することができる。 ・ 日常的な話題（学習・課外活動）について話したり書いたりすることができる。				知思態		授・他	PFT
	L6	I	2	ア	A2	・ 可能や許可などを表す助動詞を正しく用いて表現することができる。 ・ 日常的な話題（食べ物や食事）に関して考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができる。			知思態			授	PFT
	L7	P	2	ア	A2	・ 義務や確信などを表す助動詞を正しく用いて表現することができる。 ・ 日常的な話題（学校生活）について考えや気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。				知思態		授・他	PFT
	L8	W	2	ア	A2	・ 意志や推量などを表す助動詞を正しく用いて表現することができる。 ・ 日常的な話題（日常生活）について考えや気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。				知思態		授・定	PT
	L9	I	2	イ	A2	・ 受動態を正しく用いて表現することができる。 ・ 社会的な話題（交通機関の問題）について意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。			知思態			授	PFT
2 学期 前半	L10	P	2	ア	A2	・ 不定詞の名詞用法を正しく用いて表現することができる。 ・ 日常的な話題（将来したいこと）について考えや気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。				知思態		授	PFT
	L11	W	2	イ	A2	・ 不定詞の形容詞・副詞用法を正しく用いて表現することができる。 ・ 社会的な話題（健康）について意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いて伝え合うことができる。				知思態		授・他	PFT

	L12	I	2	イ	A2	・使役動詞・知覚動詞などを正しく用いて表現することができる。 ・社会的な話題（新しい製品）について意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。			知思態			授	PFT
	L13	P	2	ア	A2	・動名詞を正しく用いて表現することができる。 ・日常的な話題（趣味・関心）について考えや気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。			知思態			授・他	PFT
	L14	W	2	イ	A2	・分詞を正しく用いて表現することができる。 ・社会的な話題（自然）について意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いて伝え合うことができる。				知思態		授・定	PT
2 学 期 後 半	L15	I	2	イ	A2	・分詞構文などを正しく用いて表現することができる。 ・社会的な話題（トラブル・事故）について意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。			知思態			授	PFT
	L16	P	2	イ	A2	・関係代名詞を正しく用いて表現することができる。 ・社会的な話題（技術・発明）について考えや気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。			知思態			授・他	PFT
	L17	W	2	ア	A2	・関係代名詞（非制限用法）などを正しく用いて表現することができる。 ・日常的な話題（達成したこと）について論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。				知思態		授	PFT
	L18	I	2	イ	A2	・関係副詞などを正しく用いて表現することができる。 ・社会的な話題（都市・町）について意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。			知思態			授・他	PFT
	L19	P	2	イ	A2	・比較表現を正しく用いて表現することができる。 ・社会的な話題（生活環境）について考えや気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。			知思態			授・定	PT
3 学 期	L20	W	2	イ	A2	・最上級を正しく用いて表現することができる。 ・社会的な話題（環境問題）について論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。				知思態		授	PFT
	L21	I	2	ア	A2	・仮定法を正しく用いて表現することができる。 ・日常的な話題（願い事）について考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができる。			知思態			授・他	PFT
	L22	P	2	イ	A2	・接続詞を正しく用いて表現することができる。 ・社会的な話題（異文化理解）について考えや気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。			知思態			授	PFT
	L23	W	2	イ	A2	・that節を正しく用いて表現することができる。 ・日常的または社会的な話題（国際社会や身の回りの問題）について、論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。				知思態		授・定	PT

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄

2025年度 家庭科 年間授業計画表						
科目名	家庭基礎		単位数	2	学年・類型	1年
担当者		使用教科書	実教出版『家庭基礎 気づく力 築く未来』		副教材	生活学Navi（実教出版）
科目の目標 (指導目標)	<div>・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</div> <div>・家庭や地域及び、社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生活を見直して、生活の課題を解決する力を養う。</div> <div>・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</div>					
評価の観点とその趣旨						
①知識・技能	<div>・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。</div>					
②思考・判断・表現	<div>・生涯を見通して、家族や地域、及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</div>					
③主体的に学習に取り組む態度	<div>・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。</div>					
評価方法						
①学期末テスト、プリント、技能点等から知識・技能を評価する。						
②各学期末テスト、プリントの中で、思考・判断・表現を評価する。						
③学習への取組、課題に対する取組、グループワーク、ペアワークの活動の中で主体的態度を評価する。						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
4月	自分・家族	これからの人生について考えてみよう	<div>・自分を見つめ、生涯発達と発達課題について理解し、これからの人生をデザインすることができる。</div> <div><さまざまな職業を知り、それに必要な資格などを知り、生活設計を立て、これからの自分を考えてみよう></div>		○	
5月		自分らしい生き方と家族	<div>・自立と共生について理解し、ライフキャリアについて考えることができる</div> <div><自立度チェックシートを活用し、現在の自分を見つめ自立を目指そう。個人からペアワークへ></div> <div>・プリントNo.1の取組</div> <div>・家族について考え、家族に関する法律を理解する</div> <div><子どもの虐待について考えてみよう></div> <div>・プリントNo.2の取組</div> <div><家族法○×クイズで確認しよう></div>		○	○
6月 7月	子ども	子どもとかかわる	<div><ビデオを見て考察する></div> <div>・子供の体と心の発達・生活について理解する</div> <div><アタッチメントの大切さを資料から学ぶ></div> <div>・プリントNo.3の取組</div> <div>・子どもと共に学び、遊ぶ大切さを理解し、それらを表現する能力がある</div> <div><手作りおもちゃを作ってみよう></div> <div>・子どもの権利とSDGsを理解し考えをまとめてみよう<グループワーク></div>		○	○

			<ul style="list-style-type: none"> ・プリントNo.4の取組 ・家庭科クラブ<家庭科での学びを地域へ生かそう> ・「赤ちゃんと共に育ち育てる」DVDを見て学ぶ ・1学期末テスト 	○	○	○
(7月) 9月 10月	高齢者	高齢者とかかわる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心と体と生活について理解する。 ・プリントNo.5の取組 ・共生社会を生きることの意義をしり、社会の一員としての役割を考え、まとめる力がある。 <地域での活動の意義を考え、ボランティアを含め、今の自分にできることをレポートにまとめる> ・プリントNo.6の取組 	○	○	○
11月 12月	食生活	食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の食文化を知り、今の食生活の現状と問題点を考え改善点を知る力がある。 <朝食の状況を考える> ・プリントNo.7の取組 	○		○
			<ul style="list-style-type: none"> ・栄養と食品のかかわりを理解し、自分の体のこととして活用することができる。 <食品と栄養、体の状態を考察する> ・プリントNo.8の取組 ・食品の安全を知り、食の環境、食品ロス等の問題を考え、食事の計画と調理ができる。 <調理実習、技能テスト ホームプロジェクト> ・食のSDGsを考える。 ・プリントNo.9の取組 ・2学期末テスト 	○	○	○
(12月) 1月	衣生活	衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・人と衣服のかかわりを理解し、衣服の素材・選択・管理について知識を得ている。 <制服の絵表示を読み取り、手入れの方法を知ろう> ・プリントNo.10の取組 	○		○
			<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な衣生活について考察できる。 <環境について3Rについて考えてみよう> ・プリントNo.11の取組 		○	○
			<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の機能デザインを理解し、製作する技術がある。 <作品を作り、裁縫に必要な技術を習得しよう> 	○		
2月	消費・経済	消費行動を考え 経済的に自立する	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての必要な知識を持ち、現状や課題、権利と責任、意思決定の大切さを理解している。<ビデオを見て確認しよう> ・プリントNo.12の取組 ・成人としての責任と経済について理解する ・プリントNo.13の取組 		○	○
			<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしと経済、金融について理解し、将来のライフプランニングができる。 <学習を終えて、もう一度人生設計を見直してみよう> 		○	
	住生活	住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいについて理解し、安全な住まい、住みやすい住まい、持続可能な住まいづくりについて理解し、表現することができる。 ・プリントNo.14の取組 <サザエさんの家を設計図に書き、そこから見えるものを考える> ・学年末テスト 	○		○
留意事項		<ul style="list-style-type: none"> ・プリント学習で進めるため、ノートは必ずしも用意しなくてもよい。 ・授業・実習等の忘れ物はしない。 				